

第7章 広報用動画のブラッシュアップ

7.1 改定作業の概要

(1) 作業の概要

令和6年度の広報用動画作成では、ナレーター確保の難しさから画面上の字幕による説明と
していたが、音声があったほうがよいという要望があり、AI 音声の活用が可能との判断から、ナレー
ションを追加した。その際、説明内容を再度チェックして、より分かりやすいものとした。

ブラッシュアップを行ったのは次の4編の動画である。

- ①Introduction to CHB Construction based on The Proposed Technical Guidelines
：プロジェクトの概要と、②及び③のダイジェストを入れ込んだ動画
- ②Visual Guide on CHB Construction [Part 1 : Preparation Work]
：技術ガイドラインに基づくブロック積みの施工準備作業動画
- ③Visual Guide for CHB Construction Based on Guidelines [Part 2:Construction of RCHB Walls]
：ブロック積みの施工作業動画
- ④How to manufacture good quality concrete hollow blocks (CHB)
：良質なブロックの使用重要性、製造方法及び良質なブロックがもたらす建築物(住宅)の性能紹介動画

ブラッシュアップの手順は次のとおりである。

- 1)タイトルや字幕を消去した動画(クリーン版)の作成
令和6年度に動画作成を受託した業者に委託して、動画から全てのタイトルと字幕を消去した動画(クリーン版)を作成した。
- 2)タイトル、字幕のリファイン及びナレーションの追加
令和6年度に作成した動画から、全てのタイトル文及び字幕のスクリーンショットを写し取って検討用資料を作成した。それらの資料について検討会議で再チェックを行い、リファインしたタイトル文、字幕及び追加するナレーション文を決定した。
- 3)ナレーション音声ファイルの作成
AIによる読み上げソフトを利用して、2)で決定したナレーション文の音声ファイルを作成した。その際、動画の内容が切り替わったことのシグナルとなるようにするため、音声のカスタマイズ(男性・女性の声、声質)を行った。読み上げソフトには、株式会社さんがウェブサイト上で提供するサービス「音声読み上げソフト 音読さん <https://ondoku3.com/ja/>」を利用した。
- 4)動画の作成
動画編集ソフトを利用して、1)で作成したクリーン版に、リファインしたタイトル文字、字幕及び音声ファイルを挿入し、バージョンアップした動画を作成した。挿入するナレーション長さ

(時間)に対して対象部分の動画の長さ(時間)が短い場合は、当該動画の最後の場面の画像を撮り、それを必要な長さ(時間)分動画に挿入することにより当該場面の動画の長さ(時間)調整を行った。動画編集ソフトには、CyberLink 社が提供する「PowerDirector 365」を利用した。

(2) 検討会議

タイトル及び字幕の再チェック及びナレーションの追加は、「広報用ビデオ改定検討会議」を設置し、計9回の会議を開催して検討を重ねた。検討会議のメンバーは次のとおりである。また、会議の議事録を7.4に示す。

広報用ビデオ改定検討会議メンバー(7名)

| | |
|------|-------|
| 実行委員 | 石山 祐二 |
| 実行委員 | 檜府 龍雄 |
| 実行委員 | 米澤 稔 |
| 実行委員 | 青野 洋之 |
| 支援委員 | 白川 和司 |
| 支援委員 | 西川 忠 |
| 事務局 | 吉野 利幸 |

7.2 動画のブラッシュアップの概要

(1) 4編共通の主な改定内容

4編の動画で共通する主な改定内容は次のとおりである。

- ・字幕を、より正確で英語として自然な表現に調整した。
- ・動画の内容と字幕の整合を図った。
- ・用語の使い方及び書き方の統一を図った。
- ・より明確で分かり易い説明を提供するためにナレーションを追加した(④を除く)
- ・ナレーションは簡潔にし、必要に応じて字幕の補足的なものとし、ナレーションと字幕が異なることを可とした。
- ・ナレーションの音声は、内容の切り替えを明確にするとともに聴覚的な単調さを防ぐ効果があることから男性声及び女性声とした。ただし、頻繁な音声の切り替えは聴取の安定性を損ねる懸念があるため音声は2, 3種類とした。
- ・令和6年度に Youtube に投稿した動画のブラッシュアップ動画あることが視聴者にストレートにわかるよう、動画タイトルの最後に「2025version」を追記した。

(2) 各編の主要な改定内容

- ① Introduction to CHB Construction based on The Proposed Technical Guidelines

- 動画の左上隅に、動画内容の区切りを示すセクションタイトルがない場面にはセクションタイトルを追記した。
- セクションタイトルは、連続する同一テーマの冒頭のみ「セクション案内」としてタイトルを読み上げた。
- 動画を「プロジェクトの概要」「②のダイジェスト」「③のダイジェスト」の3つのパートに分け、それぞれでナレーターを変更した。

②Visual Guide on CHB Construction [Part 1:Preparation Work]

- 動画の左上隅に、動画内容の区切りを示すセクションタイトルがない場面にはセクションタイトルを追記した。
- セクションタイトルは、連続する同一テーマの冒頭のみ「セクション案内」としてタイトルを読み上げた。
- 地墨打ち作業の内容と墨打ち図及び字幕の整合を図るとともに、どの部分の作業を行っているかを判り易く示すため、図中の線や点を太くして視認性を高めた。
- 理解維持を目的にナレーションが間延びする箇所には、中間で短い補足ナレーション/テロップを再投入した。
- 動画を「使用する CHB の準備」「ブロック積み施工の準備」「鉄筋加工および安全対策」の3つのパートに分け、それぞれでナレーターを変更した。

③Visual Guide for CHB Construction Based on Guidelines [Part 2:Construction of RCHB Walls]

- 動画の左上隅に、動画内容の区切りを示すセクションタイトルがない場面にはセクションタイトルを追記した。
- セクションタイトルは、連続する同一テーマの冒頭のみ「セクション案内」としてタイトルを読み上げた。
- 動画内容が連続した一連の流れで構成されていることから、継続性を重視し、全体のナレーションは1名のナレーターが担当することとした。

④How to manufacture good quality concrete hollow blocks (CHB)

- 技術的な説明場面について専門用語の多様を避けるとともに、専門家でない場合でも理解できるよう表現を工夫した。また、視覚補助として写真を新たに挿入した。
- 日本のブロック住宅の事例として、外観がブロックでない場合が増えており(木材や金属板など)、その事例を追加した。
- 日本の近年の住宅事例の部分では、必要に応じて住宅設計者や写真撮影者を追記した。
- 動画を「良質なブロックの使用重要性」「良質な CHB の製造」「良質なブロックがもたらす建築物(住宅)の性能」の3つのパートに分け、それぞれでナレーターを変更した。

7.3 ブラッシュアップ動画の Youtube への投稿及び広報用フライヤーの作成

ブラッシュアップした動画の Youtube への投稿画像を写真 7-1 に、また、フィリピン向けの広報用フライヤーを写真 7-2 に示す。



写真 7-1 北海道建築技術協会の Youtube チャンネルに投稿した動画



写真 7-2 フィリピン向け広報用フライヤー

7.4 広報用ビデオ改定検討会議の開催状況

広報用ビデオ改定検討会議を次のとおり計9回開催した。

- ・第1回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年8月6日(水)10:15～12:35、個別(Zoom))
- ・第2回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年8月21日(火)10:45～12:35、個別(Zoom))
- ・第3回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年9月5日(金)10:00～12:35、個別(Zoom))
- ・第4回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年9月8日(月)10:00～12:10、個別(Zoom))
- ・第5回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年9月16日(火)11:10～13:15、個別(Zoom))
- ・第6回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年9月22日(月)10:00～12:15、個別(Zoom))
- ・第7回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年10月16日(木)15:00～17:40、個別(Zoom))
- ・第8回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年11月10日(月)10:00～12:20、個別(Zoom))
- ・第9回広報用ビデオ改定検討会議(2025(令和7)年11月11日(月)10:00～12:00、個別(Zoom))

令和7(2025)年度第1回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|--|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年8月6日(水)10:15～12:35 |
| 開催場所 | 個別 Zoom |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、檜府龍雄、米澤稔、青野洋之 支援委員(2):白川和司、西川忠 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-1-1__教材 I 編テロップ修正検討__コメント追記 資料 7-1-2__報告版 バングラデシュ出張報告 資料 7-1-3__追記版 バングラデシュの花ブロック |
| 区分 | 内 容 |

| | |
|------|--|
| 議事事項 | <p>議事内容</p> <p>1. 広報用ビデオ教材 I 編のテロップ修正及びナレーションについて</p> <p>(1) 教材 I のテロップ文の修正方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントに基づいて教材 I のテロップ文を修正したことを報告(吉野) <p>1) 冠詞の扱いと統一性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冠詞(a, the, 無冠詞)の使い方が統一されていないが、耳で聞くナレーションでは、冠詞の不統一はそこまで気にしなくてもよい(青野) ・ネイティブチェックでも人によって意見が分かれるため、絶対的な正解はない。気にしながら進めるしかない(檜府) ・共通認識として「冠詞の扱いは柔軟に、過度に気にしすぎない」という方向で合意できていればいいのではないか(青野) <p>2) can と could の使い分け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行のテロップ文で can は直接的、could は仮定法的なニュアンスで使い分けている(檜府) ・修正にあたっては AI の推奨に関わらず現行テロップの can と could の使い分けを尊重する(吉野) <p>3) テロップ文のピリオドの有無</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テロップ文の文末のピリオドは通常はつけない印象(檜府) <p>4) テロップとナレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テロップは文字数を抑え、ナレーションで補足する方が視聴者にとって負担が少ない(檜府) ・語りかけるようなナレーションの方が注意を引きやすい(青野さん) ・テロップ文とナレーションは内容が異なってもよく、柔軟にした方がわかりやすい(檜府) ・檜府氏の追記はナレーション用であり、テロップには入れる必要はない ・テロップとナレーションは違っていてもよい方針で進めるのか(白川) ⇒そのとおり(吉野) <p>5) 今後の方針確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI 修正済みのテロップをベースに検討を進めていくことを了承 <p>(2) テロップ文の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI 修正済みのテロップ文と各委員からのコメントをベースにテロップ文及びナレーション文の検討を進めた ・次回は教材 I の検討を終えられるように各委員が事前に目を通しておく <p>2. その他</p> <p>(1) バングラデシュ現地視察報告(檜府氏)</p> |
|------|--|

| | |
|-------------|---|
| <p>議事事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・焼成レンガの大気汚染問題により使用禁止となり、代替材料としてコンクリートブロックや無焼成レンガへの関心が高まっている ・現場視察では 14 階建て RC 造+耐震壁のマンションを訪問。非構造壁にレンガサイズのコンクリートブロックを使用。外壁厚 15cm、内壁厚 10cm。自社生産・自社使用で販売はなし。大手 5 社も同様の体制 ・ブロックは空洞構造で、横筋挿入時のみ空洞面を上向きに配置。補強は横方向に 2 本の鉄筋、縦方向は 70～100mm 間隔で手作業による鉄筋挿入 ・工場は都市部から約 25km。中国製機械を使用し、主に振動と圧力で締め固め。強度は 18MPa とされるが、実際は疑問も。現場管理は工程表・材料搬入記録などが整備されており、一定の管理体制が確認された ・RC 柱とブロック接合部のモルタルにクラックが見られ、購入者からの懸念も ・多機関主催のセミナー参加は可能。個別説明会は日程的に困難。候補機関:HBI(政府系研究所)、CODEC(低所得者向け住宅支援 NGO)、スルタン氏主導のブロック製造業者。 ・モスクやオフィスビルに花ブロックが多用され、通風・装飾目的で使用 ・舗装ブロックはインターロッキング型が主流だが、強度不足・施工不良による破損が多く見られる。一部メーカーが意図的に弱い製品を供給しているとの指摘あり <p>(議論)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターロッキング用と空洞ブロック用の機械は厳密には異なる。兼用可能な機種もあるが、製品サイズ・形状に制限あり(青野・米澤) ・花ブロック製造には専用金型が必要。小型機でも製造可能な事例あり(例:セブ島)。圧縮強度は日本製で 40～50N/mm²以上。セメント量が少ないと強度低下の懸念。現地舗装ブロックの破損は、製品強度だけでなく施工下地の不備も要因としてある(青野) ・次回訪問は 10 月下旬。檜府氏と青野氏が 1 週間滞在予定 <p>(2) フィリピンの学校の RCHB 造による試設計について(西川)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平屋建てプランの構造検討 <ul style="list-style-type: none"> ・提示された平屋プランをブロックモジュール(400mm)に調整。教室面積は約 64.68 m²で、元図面とほぼ同等 ・壁量計算では、X 方向 1.59%(基準 1.2%)、Y 方向 1.3%(基準 1.2%)でいずれも基準を満たす ・面内、面外方向の臥梁検討も実施。開口スパン 28m に対して補強筋配置で安全性を確保 2) 2 階建てプランの構造検討 |
|-------------|---|

| | |
|-------------|---|
| <p>議事事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・平屋プランを上下に重ねた構成で検討 ・初期案では壁量不足となり、X・Y 方向ともに 2 重積みで対応 ・X 方向:2 階は 1.59%で OK、1 階は若干不足 (2.76%に対し 2.62%)だが調整可能 ・Y 方向:2 階は余裕あり、1 階は教室 1 室分のみの計算で不足だが、全体計算で補える見込み。 <p>3) 屋根構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋根は軽量鉄骨トラス構造を想定。2 階床は RC スラブ ・屋根重量を考慮すると、2 階の壁量は軽減可能で、2 重積み不要の可能性もあり <p>(議論)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 重積み壁の接合方法として、縦穴にコの字型金具を差し込む方法がある ・2 重壁は、上下の臥梁と基礎が一体化していればそれらと一体として動き問題なし。施工上の工夫として壁の部分的な連結が望ましい。 ・Y 方向の壁量不足は、厚み変更 (例:15cm→19cm)や平面計画の工夫 (教室設置など)で対応可能。 ・バットレスの追加は意匠上の懸念がある ・今後の現地説明では、平屋は現状で対応可能、2 階建ては 1 階部分の壁量強化が必要と説明予定。現地説明会の予定として、DPWH (公共事業省) への説明は 8 月 11 日午後 2 時 (現地時間)に決定。西川氏がオンラインで参加し、檜府氏が通訳を行う ・現地の反応を見て、詳細設計の進行を判断する方針 ・最終報告書には、平屋・2 階建ての構造対応方針を簡潔にまとめた 1 ページを添付予定 (西川氏担当)。 |
| <p>議事事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・現地の反応を踏まえ、詳細設計や構造調整を柔軟に対応 ・代替案 (壁厚変更・平面工夫・施工ディテール)を含めた説明を準備 <p>3. 次回の予定</p> <p style="padding-left: 40px;">8 月 21 日 (水) 10:30 より Zoom にて開催</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |



令和7(2025)年度第2回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|--|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年8月21日(水)10:45～12:35 |
| 開催場所 | 個別 Zoom |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、榎府龍雄、米澤稔、青野洋之 支援委員(2):白川和司、西川忠 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-2-1__教材 I 編テロップ修正検討 0806(No13 まで完了__履歴消) |
| 区分 | 内 容 |
| | <p>議事内容</p> <p>1. 広報用ビデオ教材 I 編のテロップ修正及びナレーションについて</p> <p>(1) テロップとナレーションの役割整理</p> <ul style="list-style-type: none"> -テロップは画面上に表示され、視覚的補足として機能 -同一内容の重複を避けるため、テロップとナレーションの文量・表現を調整。 -ナレーションは簡潔に、必要に応じて補足的なものとする <p>(2) 動画内容、テロップ及びナレーションに関する主な議論</p> <p>1) スライド 14～16:ブロックのカッティング</p> <ul style="list-style-type: none"> -「横筋を通すためにブロックを削る」趣旨を明確にする表現がとして「Connect」より「Pass through」の方が適切との意見 <p>2) スライド 17～18:コンクリートの充填</p> |

| | |
|------|---|
| 議事事項 | <p>-「Support」という語は文脈に不適切。→「Apply」に修正</p> <p>3) スライド 19～22: 道具の説明</p> <p>-道具名はテロップで表示し、ナレーションでは読み上げ不要</p> <p>-ナレーションは「ここからはブロック積み作業です」など導入的表現を追加</p> <p>-「ワーク」など不要語句は削除</p> <p>4) スライド 23～24: 測量機器の説明</p> <p>-スライド 23 はオートレベル。スライド 24 はトランシット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オートレベル: 高さをレーザーで測定 ・トランシット: 水平・鉛直角度を測定 <p>-「スタッフ」は箱尺を指す測量用語であり、正しい用語として採用</p> <p>-それぞれのテロップ文の精査を行う</p> <p>5) スライド 26～34: レファレンスラインとセンターラインの扱い</p> <p>-「Reference Line」→「Reference Lines」に修正</p> <p>-左上図中のグリーンのラインが端に寄りすぎているため、中央寄りに配置し、矢印等で視認性向上を図る</p> <p>-センターラインの墨出しは、実際の施工では基礎から立ち上がった縦筋があるため困難。このため、実際にはセンターラインの墨出しはしないのが一般的</p> <p>-動画上で鉄筋が立っているように加工できるか制作会社に確認。可能であれば説明文もそれに合わせて修正。</p> <p>-スライド 34 は同様の説明が前にもあり、視聴者の理解に支障がないため削除してはどうか</p> <p>-スライド 35 の「Creation」→「Preparation」に修正</p> <p>-スライド 36 は「Members」とする</p> <p>6) 積み段の英語表現</p> <p>-ブロック積みの段数を表す用語として「Course」が建築用語として使われている</p> <p>例: First Course, Second Course (米国建築用語)</p> <p>7) 次回</p> <p>-次回会議で残りのスライド(35 番以降)を確認し、教材編集作業を完了する</p> |
| 議事事項 | <p>2. その他</p> <p>(1) フィリピン事前調整報告(檜府氏)</p> <p>1) 現地校舎の視察と構造確認</p> <p>-校舎はマニラ中心部に位置し、周辺は高密度市街地</p> <p>-校舎は耐震補強対象であり、開口部が大きく、構造的に華奢な印象</p> <p>-プレキャストスラブ、リブ付き版、RC 梁、ブロック壁構造が確認された</p> <p>-廊下側は壁あり、反対側は開放的で壁が少ない</p> |

2) 耐震補強の方向性と技術的検討

-オリエンタルコンサルタント・グローバルが補強業務を受託。来年～再来年に約200棟の補強予定。

-柱が細く耐震性に課題あり。外付け鉄骨ブレース(制震ダンパー入り)による補強案が検討中

(議論)

-教室側の窓は大きく設計されているが、日本基準では床面積の1/5が採光面積の目安(西川)

-建物用途係数は1.5で、補強設計に厳しい条件(西川)

-空洞ブロック壁の全充填、鉄筋径の増加(9mm→12~13mm)により体力向上の可能性(石山)

-壁率の低減(最大1/2)や、屋根を軽量鉄骨に変更することで2階建てまでの対応は可能と見込まれる(石山)

-3階建て以上は構造計算上厳しく、慎重な検討が必要(石山)

-オンライン会議を9月8日または16日に実施することをDPWHに提案(時間は相手側に合わせる)

議事事項

-会議では構造計算ソフトの概要、現時点の到達点、補強案の方向性を説明

-相手側の意欲・要望を確認し、今後の作業量を調整する

-既存の構造計算書の有無を確認する(石山)

3. 次回の予定

9月5日(水)10:00よりZoomにて開催

以上



第2回広報用ビデオ改定検討会議参加者

令和7(2025)年度第3回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|---|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年9月5日(金)10:00~12:35 |
| 開催場所 | 個別 Zoom |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、檜府龍雄、米澤稔、青野洋之 支援委員(1):白川和司 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-3-1__教材 I 編テロップ修正検討__0806(No43 まで完了__履歴消) |
| 区分 | 内 容 |
| 議事事項 | <p>議事内容</p> <p>1. 広報用ビデオ教材 I 編のテロップ修正及びナレーションについて</p> <p>1) スライド 14~16:ブロックのカッティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機器説明(トランシット)の補足文を採用。水平・鉛直角度を測る光学装置として明記。 ・墨出し図:グリーンの基準ラインが端に寄っていたため、中央寄せ+矢印追加の図に差し替え。 ・X/Y 方向の取り違え是正:実際は Y 方向のセンター/サーフェスラインである箇所を図・文言を差し替え。 ・3:56-4:16の動画区間は削除せず、図・テロップ側を是正して最後まで流す方針に変更。 ・立ち上がり鉄筋がある場合にセンター一点が打てない等の補足は、対象視聴者や冗長性を考慮し非掲載とする(質問があれば口頭対応)。 ・「端点」の表現:壁(wall)の端ではなく、CSB ユニット(unit)の端を指す箇所は“unit”に統一。外側/内側の表面ラインは“wall”で可。 <p>2) モルタルの配合・表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体積比は「砂:セメント=3:1」を標準とする。 4:1 は不可。2.5:1 は可。3:1 を「おおよそ」と緩めて上限超過を許容する表現は避ける。 ・水の量は固定値にしない。砂の粒度・含水・作業性に依存するため、「適切な硬さ(good consistency / good workability)になるまで加水」と記載。 ・目安として「通常は約 0.5」程度は可。ただし強調しすぎない(0.4~0.7 程度の変動余地がある)。W/C 比としての 50~53%など、別系統の数値は混乱要因のためテロップから削除。 ・混合手順の明確化(視聴者に直感的に伝わる表記) ・砂は「全量の 1/3 を先に投入」→「残り 2/3 を投入」と明記(“required amount” |

| | |
|------|--|
| 議事事項 | <p>は使わない)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水は一度に入れず、少しずつ加えながら混合。命令形で簡潔に「Check consistency」等の表現へ。 ・“deliver to site”などの動詞の品詞誤りを是正。 <p>3) 砂の最大粒径・粒度分布の表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最大粒径は「2.5 mm を超えない(not exceed 2.5 mm)」と表記。「粒度は適切に分布する(properly distributed)」を併記。 ・テロップは見出しと箇条書きで簡潔にまとめる(例:Max. diameter: 2.5 mm、Particle size: properly distributed)。 <p>4) プレミックスモルタル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テロップは「プレミックスモルタルは使用可能」と簡潔化(少量時の条件は削除)。ナレーションも整合。各国事情でコスト差・材料特性差があるため、選択肢としての提示に留める。 <p>5) 安全対策(PPE 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴーグル表現は“protective goggles”を基本とし、用語最終確認後に確定。 ・繰り返しテロップは許容(ナレーションでは冗長回避)。 ・高所作業は“work at heights”を採用。 <p>6) 鉄筋(Rebar)セクションの表現整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しは“Rebar work”。工具は“Cutting and bending tools”に統一。 ・文言は簡潔化し、“angle”の冗長表現を削減。 ・余長の切断は現行説明を維持(動画の流れで理解可能)。 ・結束線は“binding wire”表記を採用(“tie wire”は不採用)。 <p>7) ナレーション制作・運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の切替は内容切替のシグナルになり得るが、頻繁な交替は聴取の安定性を損ねる懸念あり。 ・複数の候補声(男性中心、必要に応じ女性)を用意し、検討。 ・動画単位(教材 1/教材 2)で声を変える案が現実的。1 本内での過度な切り替えは回避。 <p>8) 今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材 2:AI 修正済み。事前レビュー用に資料再送予定。 ・Digest 版は教材 I・II が完成した後、修正検討。 ・CHB 製造編は静止画中心のため内製対応(テロップ・ナレーション含む)。 <p>2. 次回の予定</p> <p>9月5日(水)10:00よりZoomにて開催</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
|------|--|



令和7(2025)年度第4回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|--|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年9月8日(月)10:00～12:10 |
| 開催場所 | 個別 Zoom |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、榎府龍雄、米澤稔、青野洋之 支援委員(1):白川和司 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-4-1__教材Ⅱテロップ修正検討__20250906 吉野 |
| 区分 | 内 容 |
| | <p>議事内容</p> <p>1. 広報用ビデオのナレーション及び教材Ⅱのテロップ修正について</p> <p>(1) ナレーションと音声の選択</p> <p>1) ナレーション速度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男声サンプルの 1.0/1.1/1.2 倍を比較し、基本は 1.2 倍で進める。 ・早口に感じる個体は 1.1 倍に落とす。 <p>2) 男性ボイス(候補の整理)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12人中、以下を有力と確認。第1候補群:「最初の一般的な男性の声」(前年採用)と、1:40 付近で評価が高かった声。 ・大きく作業区分が変わる箇所です「2 種類(前年採用+1:40 付近の候補)」の |

| | |
|------|--|
| 議事事項 | <p>声色切り替えを試作し、次回レビューで最終決定。</p> <p>3) 女性ボイス</p> <ul style="list-style-type: none"> 候補再確認のうえ「3 番目の女性ボイス」で合意。 使い所: 区切り(セクション切り替え)やダイジェスト等の短尺での試用を予定。 <p>4) 教材 1 への適用方針</p> <ul style="list-style-type: none"> スライドごとではなく、作業の大きな区分(約 4 つ)で声色を切り替え。 切り替え前後それぞれ 2~3 枚の短い抜粋で試作し、聴感の適否を検証。 <p>5) 次回までの作業方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材 1 の声色切り替えサンプル(切替前後各 2~3 枚)を作成する。 <p>(2) キャプション・スクリプト編集(教材 II)</p> <p>1) タイトルの読み上げポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則としてタイトルは読み上げない。 ただし、連続する同一テーマの冒頭スライドのみ「セクション案内」としてタイトルを読み上げる。 タイトル表記は動名詞より名詞句を優先(例: “Vertical rebar placement”) <p>2) 用語・動詞の統一</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロックを並べる: “lay” モルタルをのせる/敷く: “put” “apply”は基本使用しない(適用のニュアンスで物理配置に不向き)。 反復箇所の説明は重複を避け、同一テロップを継続表示可(例: ベッドモルタル作業中は同一文を流用)。 <p>3) 表記・語法の調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ベッドモルタル厚: “a few-centimeter-thick bed mortar”(ハイフンで連結)。 “successive”より平易な“next”を選好。 「角のブロックに隣接する」を採用する。 <p>4) 文面の代表修正(合意例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎面の許容不陸:床または基礎の表面の凹凸が 20 ミリメートル未満であることを確認してください。 “exceeding”構文は避け、検証命令+閾値明示で簡潔化。 立て筋の仮固定: <ul style="list-style-type: none"> “temporary”を明示(テンポラリーの綴りを修正)。 接続前置詞は文全体の流れで“with”/“to”を検討したが、最終稿で自然な形に統一(次回までに整備)。 空洞(hollows)の充填: <ul style="list-style-type: none"> 棒を使って、空洞部分にモルタルが確実に行き渡るようにしてください。 |
| 議事事項 | |

議事事項

(“thoroughly”は確実な充填を強調しています)

・コーナーブロックの定義・説明:

・コーナーブロックはエンドユニットの外側シェルを切り離して作られます。
(簡潔化し、該当位置へ前倒し配置)」

・アライン・レベルの指示:

・“Align”と“level”はいずれも動詞として扱い、ストリングライン等で確認する流れを統一。

5) 冗長・重複の削減

・既出説明(例: エンドユニット加工説明)は、重複スライドでは省略し必要情報に絞る。

6) 未確定・継続検討(次回詰める論点)

・縦筋の固定字幕文の前置詞最終統一(“with”/“to”)と文内の“to”重複回避の微調整。

・“at the top edge of the first course”等の位置表現の最終文言(図と整合)。

・連続節タイトルの読み上げ有無の一貫適用(教材 1 も合わせてルール適用)。

・教材 2 の合意済み修正を反映し、未確定点は候補文を用意して一気に決裁

・表現統一に伴い、既存スライド間での整合チェック(重複抑制、タイトル読み上げルール適用漏れ)に注意。

2. 次回の予定

9月16日(火)11:00よりZoomにて開催

以上

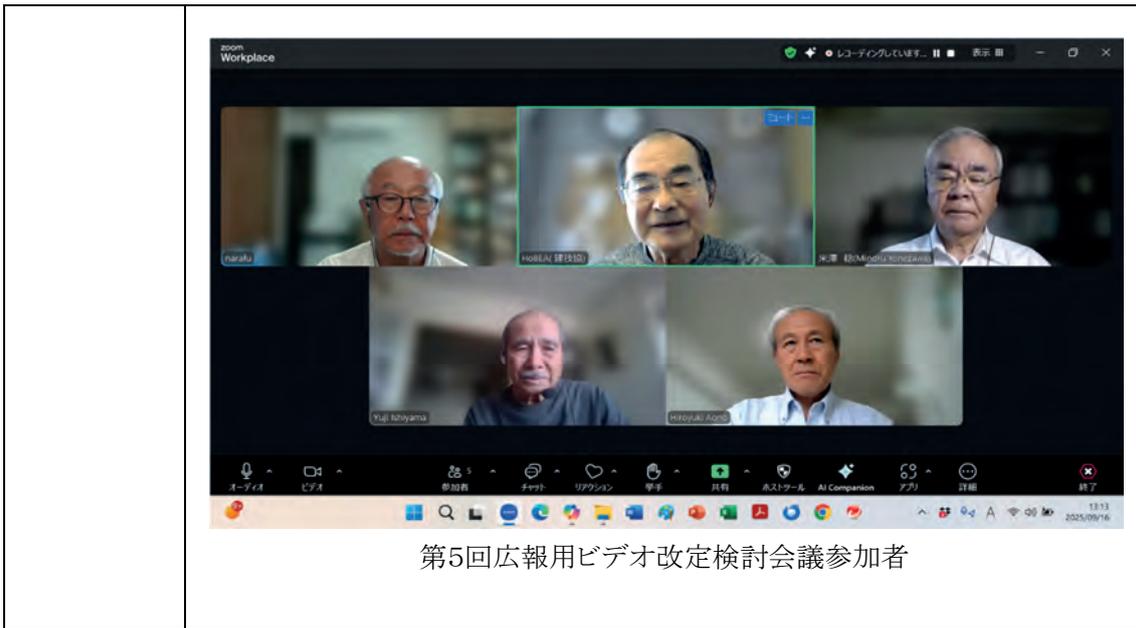


第4回広報用ビデオ改定検討会議参加者

令和7(2025)年度第5回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|--|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年9月16日(火)11:10~13:15 |
| 開催場所 | 個別 Zoom |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、檜府龍雄、米澤稔、青野洋之 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-5-1__教材Ⅱテロップ修正検討__20250906 吉野 0908(スライド 18 まで__整理) |
| 区分 | 内 容 |
| 議事事項 | <p>議事内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養生条件の違いによるコンクリート強度影響の委託実験 <ul style="list-style-type: none"> ・出荷最短材齢はケースにより1週もあり得るが、通常は2週。 ・初期強度評価では3日試験もあるが、季節要因(高温多湿や反応速度の変動)で安定性に課題。 ・試験材齢は7日を採用(早期出荷運用の実態にも整合)。 ・来年度の学会にて、昨年度実験+今回の結果を論文形式で梗概発表する方針(特に昨年度分の取りまとめを吉野氏中心に推進)。 2. 広報用ビデオのナレーション及び教材Ⅱのテロップ修正について <ol style="list-style-type: none"> (1) ナレーションの方針 <ul style="list-style-type: none"> ・目的: 技術ガイド映像の理解度向上とメリハリ付与のためのナレーションを設計(複数音声) ・全体の基調はAI音声。 ・中盤の一部でクリストファーに切り替え(気分転換・パート差異を明確化)。 ・終盤の道具説明には女性の音声を採用している。 ・切替頻度は多用しない(全体で2回程度の切替を目安)。 (2) 英語表現の検討・修正方針 <ol style="list-style-type: none"> 1) 接続語・流れ: <ul style="list-style-type: none"> ・前後の文脈と食い違いが生じるため、“However”を多用するのは避ける。必要に応じて、“after that”や“then”等に置き換え。 2) 動詞選択: <ul style="list-style-type: none"> ・place/put の使い分け: 実際に置く動作は“put”、配置完了の指示・配置動作は“place”を文脈で使い分け。 ・“using a line”より“aligning to the line”が適切(ゲージとしての糸を強調)。 3) 名詞・複数形: |

| | |
|------|---|
| 議事事項 | <ul style="list-style-type: none"> • rebar の複数形は“rebars”で統一(文脈によって可算名詞として扱う)。 • “end unit”の表記は、実態(基本・横筋兼用が多い)に合わせてシンプルに表現。 <p>4) 技術手順の明確化:</p> <p>a. 二段目積みと横筋:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 横筋の実測と切断: 縦筋の間隔を測り、それに合わせて横筋を切断し、端を曲げて縦筋に接続するためのフックを形成。 <p>b. 接続・かぶり厚さ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 横筋を結束線で縦筋に結びつけ、かぶりモルタルの厚さを最低 20mm 確保する。 <p>c. モルタル充填:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「垂直および水平の鉄筋まわりの空洞にグラウト材を流し込む。」(必要に応じて「垂直継手周辺の空洞」など) <p>d. 墨出し・通り:</p> <ul style="list-style-type: none"> • “Align to the line”を採用し、“using the line”は避ける。 <p>5) 写真・動画との整合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 画像に写っていない要素(例:ウェブ)を説明する場合は、動画の連続性で補足がわかるように言い回しを調整。 <p>6) 品質・禁止事項:</p> <ul style="list-style-type: none"> • モルタルの再練りは可だが“Never add water.”を明記。硬化進行で使用不可なら廃棄を明示。 <p>7) 用語統一の一例:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 縦方向・横方向の鉄筋、隅部の鉄筋、結束線、カバーモルタル(厚さ 20mm 以上)、フェイスシェル、ウェブ、HB/CHB ユニット、端部ユニット、コーナーブロック。 <p>3. 次回の予定</p> <p>9月22日(月)10:00よりZoomにて開催</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |
|------|---|



令和7(2025)年度第6回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|--|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年9月22日(月)10:00~12:15 |
| 開催場所 | 個別 Zoom |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、榎府龍雄、米澤稔、青野洋之 支援委員(1):白川和司 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-6-1__教材Ⅱテロップ修正検討__20250906 吉野 0908(スライド 33 まで整理) |
| 区分 | 内 容 |
| | <p>議事内容</p> <p>1. 広報用ビデオのナレーション及び教材Ⅱのテロップ修正の続き</p> <p>(1) 左肩タイトル(共通方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ベーシック(basic)」の強調は削除し、「Lay units of the 3rd course」のようにコース単位で簡潔に統一する。 ・単複(unit/units)は文脈に合わせて整合(基本は複数形)。 <p>(2) 文言精度(代表例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余剰モルタル:「excess joint mortar(形容詞用法の excess)」で表現。 ・横筋ブロック上の基本ユニット設置:複数形/用語の整合を図る。 ・縦筋周りの充填作業:ユーザー主体の表現に変更する(例:Use a stick tool |

| | |
|------|--|
| 議事事項 | <p>to ensure full filling 等)。</p> <p>(3) 目地仕上げ(タイミングと表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「積み後 約 1 時間で目地を整える」は目安であり、外気温・天候で変動する注記を含める。 ・「down」のような不要語は削除し、コテで均す趣旨に簡潔化。 ・仕上げ不要ケース(後貼り・後塗り下地)は「書き落としのみ」でコスト差が出る。 <p>(4) 工程順序の整合(四段目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目地仕上げ表示の前後に、横筋配置・縦筋周り/横筋周りグラウトの画が混在。説明順を「目地仕上げ」⇔「配筋・充填」で破綻しないよう、テロップを再配置。 ・42 番の映像は水系の可能性が高く、横筋配置作業が映っていないため文脈が途切れており、41・43 番の趣旨に合わせて説明を補完し、不要であれば同一テロップで通す。 <p>(5) 天端からの下げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次段施工時の打継ぎ性向上と透水リスク低減のため、天端モルタルを数センチ下げる説明を一体で提示。 ・文言例として「So that the grout of the next day will be well combined...」と「It also helps to prevent water penetration.」の 2 つの英文を用い、「prevent」を使うことで表現を明確にした。 ・横筋部も同様に下げる旨を明示し、フォローズ等の不要語は整理。 <p>(6) 時間表示(40-60 分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工所要時間(準備含まず)の目安として提示する方向へ整理(「necessary time」の表現は再考し「may take 40 to 60 minutes」等に)。 <p>(7) 用語・タイトルの補完</p> <ul style="list-style-type: none"> ・途中で左肩タイトルが欠落するスライドは、短い汎用タイトル(例:「Wall up to 4th course」)で補完し全体の一貫性を担保。 <p>(8) こて(トロウエル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・左写真:ブリックトロウエル(レンガ用)と三角トロウエル/右写真:ジョイントトロウエル(目地仕上げ用)。 ・どちらを推奨というより、職人の体力・好みにより使い分ける旨を説明(海外では三角型が主流、日本ではブリック型が扱いやすい傾向)。 ・表記は写真に合わせて単数形で簡潔に記載。右側には「for making clean joints」の用途を明記し、誤解を防ぐ。 |
| 議事事項 | <p>(9) 練り箱・一輪車</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Box for mortar」「Wheelbarrow」で表記。現場規模により、練り箱を各手元に |

議事事項

配置し一輪車で供給する運用もある。

2. 教材 1:編集検証と内製化方針

- ・黒画面発生箇所はナレーション延長に伴う映像不足が原因。映像延長とBGM/テロップ調整の手法で違和感なく解消可能である。
- ・委託による修正では予算超過懸念あり。テロップとBGMを外した素材提供を受けられれば、内製でテロップ修正・ナレーション追加・尺調整の対応は可能。
- ・素材提供が有償の場合は予算内で対応可。提供可否と費用は先方確認のうえ進行。

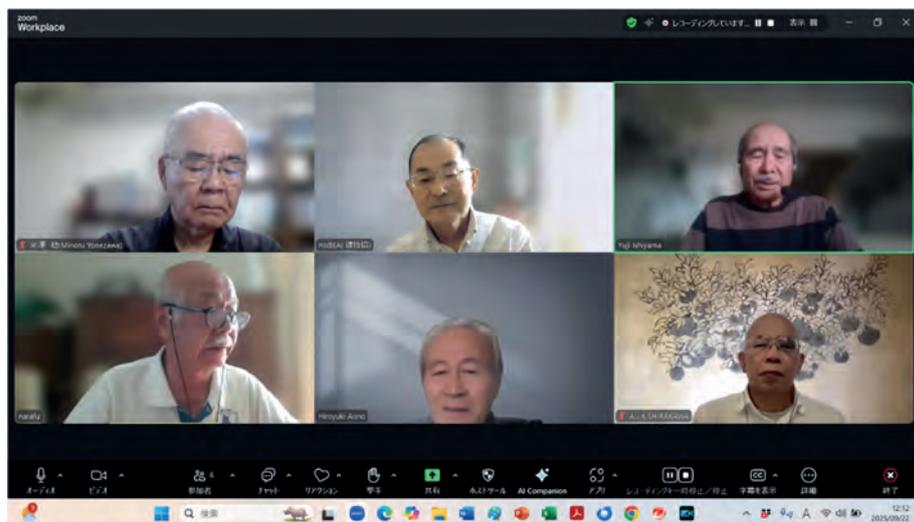
3. ガイドライン改訂の進捗次回の予定

- ・縦横配筋ピッチ:0.5m 以内表記から 0.6m 以内へ見直し済み。通常は 0.4m 推奨、コーナー部の寸法ずれは(15cm/19cm 等で)吸収可能。
- ・今後、ガイドライン全体の誤記修正・整文を実施。
 - ・コメント(コメントリー)追加は優先度の高い 2-3 項目に絞り、提案書記載の最小限実装を目標。

4. 次回の予定

- ・拡大実行委員会:9/26(金)14:00 開始(国交省訪問後の移動で間に合う想定)。開始時刻は再確認のうえリマインド送付。
- ・次回は 10/1(火)15:00 開始
- ・内容はガイドライン見直し(~1 時間想定)。時間が余れば:教材(ダイジェスト前半/教材 1・2 修正反映)レビューを行う

以上



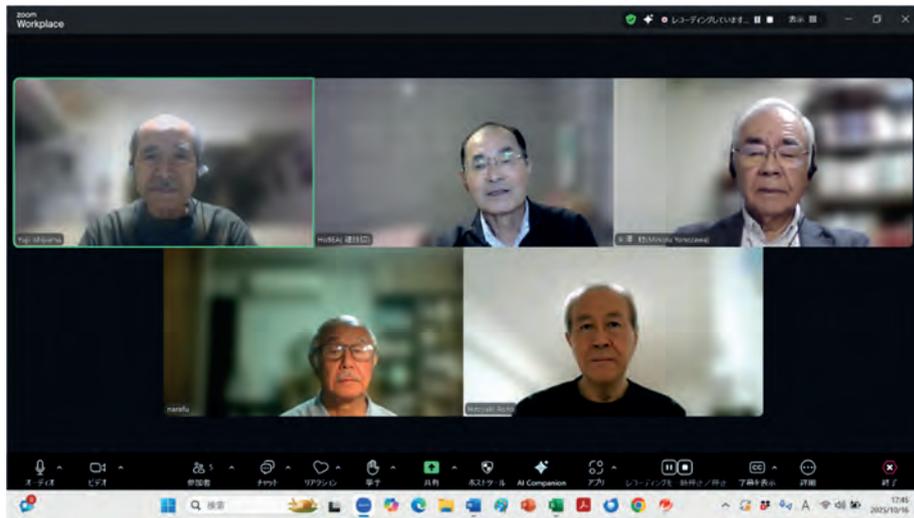
第6回広報用ビデオ改定検討会議参加者

令和7(2025)年度第7回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|--|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年10月16日(木)15:00～17:40 |
| 開催場所 | 個別(Zoom) |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、檜府龍雄、米澤稔、青野洋之 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-7-1__ダイジェスト編テロップ修正検討__1001 |
| 区分 | 内 容 |
| 議事事項 | <p>議事内容</p> <p>1. ダイジェスト編のナレーションの修正及びテロップ検討の続き</p> <p>(1) ガイドライン(共通方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインは複数形に統一する(Guideline→ Guidelines)。 ・文章末尾にピリオドを追加する。 <p>(2) 技術的な表現を調整(代表例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HoBEA(建技協)の発音表記を「ホベア」に統一 ・CHB ブロックの複数形表記(CHBs)を採用 ・ナレーション用の発音調整を実施 <p>(3) 専門用語の英語表記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一般的」を「General」から「Ordinary」に変更 ・マグニチュード表記を統一(例:2013 Magnitude 7.0 Bohol earthquake) ・構造用語の適切な英訳を確認(exterior walls, partition walls 等) ・品質表現: 「High Quality」を「Good Quality」に統一 ・工法説明: 推奨工法(Recommended Construction Method)のセクション分けを明確化 ・踏み付け試験を「Stamp Test」として統一。 ・強度試験を「Strength Check by Block Test」として表記 <p>2. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画制作: 制作会社との調整により、今月中にリメイク用動画データを納品予定 ・スケジュール: 11月-12月でリメイク終了を目指す。 <p>3. 次回の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回のガイドライン編集検討会議(Zoom):11/10(月)10:00 から |

・内容:良質 CHB に関する動画の字幕修正

以上



第7回広報用ビデオ改定検討会議参加者

令和7(2025)年度第8回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|--|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年11月10日(月)10:00~12:20 |
| 開催場所 | 個別(Zoom) |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、檜府龍雄、米澤稔、青野洋之(途中参加) 支援委員(1):白川和司 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-8-1__良質 CHB 製造編テロップ修正検討__1110 |
| 区分 | 内 容 |
| | <p>議事内容</p> <p>1. ダイジェスト編のナレーションの修正及びテロップ検討の続き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“High Quality”ではなく“Good Quality”を採用(過度な高級イメージを避け、規定値合格の「まともな品質」を強調)。 ・画面は簡潔(例:“This shows”はナレーション側へ)。視認性重視。 ・落下(falling)、踏圧(stamping/withstand)、重荷重(heavy load)の各試験で、表現を簡潔かつ一貫化。 |

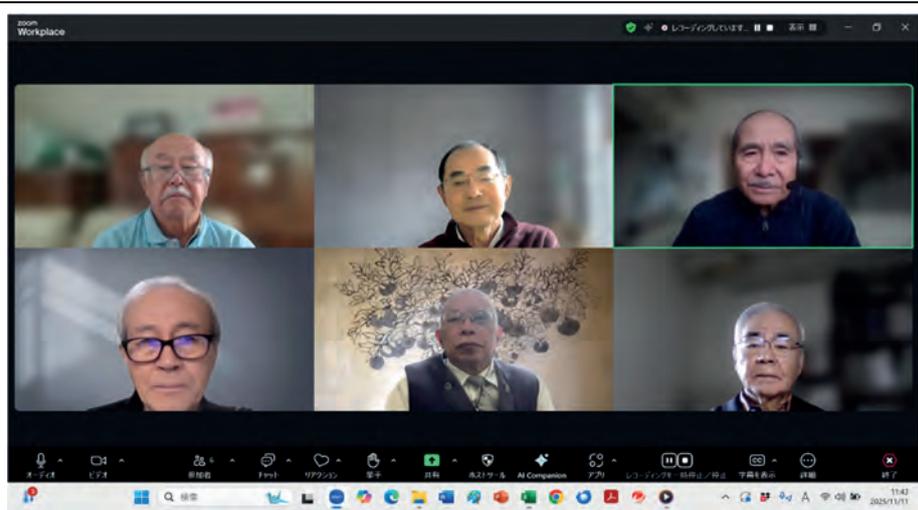
| | |
|-------------|---|
| <p>議事事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・日本製 CHB の強度優位は“strong/stronger”で明確化。サブスタンダード(基準未満)との対比を適切に。 ・火山灰砂 (Volcanic sand/ash) の扱いは、“Example of mixing ratio/gradation”として、見出しに“Example”を明示。粒度分布は専門用語多用を避け、必要最小の説明に。 ・配慮として「細粒分が多すぎると強度を損なう」旨を短文で補足。 ・最適配合探索は“trial/test mixing”で現場試行により見出す旨を提示(専門図表がなくても理解可能に)。 ・CHB 用材料は“concrete for CHB”と明記(モルタルとの混同回避、粗骨材 5mm 超を含む)。 ・タイトルを“Simple check of water ratio”とし、主目的(水分量の確認)を明示。 ・手順と良否判定を平易に記述。材料をしっかりと握り、手を開いたときに「塊が形を保ち、崩れすぎず、べちゃっと流れ落ちない」状態を良とする。 ・視覚補助として写真(良好例)を挿入予定。 <p>2. その他</p> <p>(1)校舎の仕設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図面は受領済み。次週以降、設計検討を集中的に進める方針。 <p>(2)フィリピン出張計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間案: 1 週間想定。 ・最有力: 1/25(日)週(必要に応じて 1/21-2/1 の前倒し出発も検討)。 ・現地での活動: 初回打合せ→検討・試行→ラップアップ。土曜は行政訪問不可のため関係者ミーティングに充当。 |
| <p>議事事項</p> | <p>(3)デベロッパー連携(原口氏経由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加図面の回答が遅延。2-3 日以内に再督促し、なお無反応の場合は原口側の既存図面提供で進行(2 階建て高級寄りの戸建 RC 事例を想定)。 <p>(4)JICA 支援のインドネシア・ヒアリング(17 日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15 分プレゼンは提出済み補足資料(奈良部作成内容)を中核に構成。ドラフトを明日共有し確認予定。 <p>3. 次回の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回のガイドライン編集検討会議(Zoom): 11/11(月)10:00 から ・内容: 良質 CHB に関する動画の字幕修正 <p style="text-align: right;">以上</p> |



令和7(2025)年度第9回広報用ビデオ改定検討会議事録

| | |
|--------|---|
| 業務名 | 令和7年度住宅建築技術国際展開支援事業(うち事業環境整備) フィリピンにおける安全なブロック造技術の普及 |
| 開催日時 | 令和7(2025)年11月11日(月)10:00~12:00 |
| 開催場所 | 個別(Zoom) |
| 出席者 | 実行委員(4):石山祐二、榎府龍雄、米澤稔、青野洋之 支援委員(1):白川和司 事務局(1):吉野利幸 |
| 議事録作成者 | 一般社団法人北海道建築技術協会 吉野利幸 |
| 配布資料 | 資料 7-9-1__良質 CHB 製造テロップ修正検討__202501110 |
| 区分 | 内 容 |
| | <p>議事内容</p> <p>1. ダイジェスト編のナレーションの修正及びテロップ検討の続き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ストロング・バイブレーション」を明記し、軽微な振動との区別を強調。 ・「High quality」を「Good quality」に統一(整合性重視)。 ・ニュアンス:適切(一定)の温度・湿度を維持する表現を採用。 ・「Curing Chamber」を前段のタイトルや説明で導入してから本文に登場させ、理解を支援。 ・「Using a curing chamber is the best choice」は断定しすぎている懸念があるため、「much better」などの比較表現を優先するべきです。ただし、見出しや選択肢の表現として限定的に「best」を使う案は許容範囲内です。 ・「Conventional unit in the Philippines」対「Good quality unit in Japan」のように |

| | |
|------|---|
| 議事事項 | <p>国名を明示し、対比の軸を整理。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Interior walls」対「Inner walls」: タイトル/テロップとしての自然さを考慮しつつ、全体整合を優先。 ・文構造の見直し: 「convince」よりも「make customers understand」などの理解を促す表現に変更。 ・「finish(es)」の単複は文脈に合わせ調整。Walls との整合を確認。 ・大量文字では視聴者は音声主体になる傾向。完全一致は不要だが、要点ズレは避ける。 ・ナレーションが間延びする箇所には、中間で短い補足ナレーション/テロップを再投入して理解維持。 ・糸張り工程で同一作業の二重表現がある箇所をカット。 ・プラスチックシート養生の事例写真が得にくい。適合する良質素材がなければ現行写真を維持。 ・代替: 基礎へのシート被覆等の参考イメージも選択肢。ただし実態との乖離には留意。 ・外観ブロックが露出しない近作が増加(外断熱や他仕上材採用)。南幌案件(話題性あり)を含む外観/内観の写真を各 1 点ずつ候補化し、スライド 32～33 付近での挿入を検討。 <p>2. 動画編集進捗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイジェスト版は約 13 分。左肩に帯を付け、場面タイトルを追記予定。表紙のロゴ/最後に教材誘導の静止画を追加予定。 |
| 議事事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・BGM 付与前提。被りで作業視認性が落ちる箇所はカット/再配置で調整。 ・一次素材の著作権は提供者側にあります。編集後の成果物の使用权は協会に帰属し、自由に利用可能です。 ・YouTube 運用: 差し替えで URL が変わるため、配布リンクの更新が必要。 <p>3. 次回の予定</p> <p>なし</p> <p style="text-align: right;">以上</p> |



第9回広報用ビデオ改定検討会議参加者

(吉野利幸)